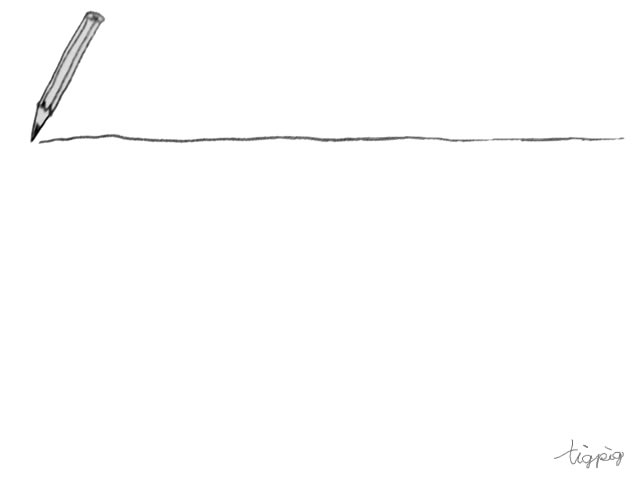
あきたけ病児保育室だより



[この写真](https://tigpig.com/archives/19504) の作成者 不明な作成者 は [CC BY-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nd/3.0/) のライセンスを許諾されています



**『あきたけ病児保育室』ってどんなところ？**

**「お子さんが急に熱を出した。。。」、「風邪をひいてしまい保育園や学校に行けない」**

**「仕事を休めないし、預ける人もいない。。。」そんな時、あきたけ病児保育室は、**

**あきたけ医院の2階で、病中、病後のお子さんをお預かりする保育室です。お気軽に相談ください。**

**保育時間 　月～金　８：３０～１７：３０　 土　８：３０～１３：０**

**◎保育時間： 月～金　８：３０～１７：３０　 土　８：３０～１３：００**

**＊対象年齢：概ね生後3ヵ月から小学6年生まで**

今回は、生後2ヶ月から始まる予防接種の事を、書かせていただきます。

ワクチンを一つ一つ解説していきます。一回目は**「ヒブ」**です。

〇**ヒブ**（・菌）〇

**名前にインフルエンザとつきますが、インフルエンザウイルスとは、違います。**子どものを起こす代表的な細菌の一つです。小児の、、などの感染症を起こします。この菌は、日常生活をしている中にいます。菌を鼻腔や、喉に保菌している人もいるため、くしゃみや咳で、飛沫感染します。通常、５歳までに、抵抗力ができますので、多くは５歳未満の乳幼児に感染します。ワクチンの接種により今では、感染症は大幅に減少しています。

　感染の初期は、風邪や、胃腸炎に似た症状で、早期診断が難しく、診断されても治療に使う抗生物質に耐性がある菌も増えています。

　２ヶ月頃までは、ヒブに対する免疫力を持ち守られていますが、それ以降は免疫力が消失します。ヒブ感染症の方は、ほとんど生後３ヶ月～４歳までに発症しますので、生後２ヶ月からの「ヒブワクチン」が有効です。

＜副反応は、ありますか？＞

まれに、腫れや発熱、発疹、じんましん、痒みがみられることがあります。一時的なもので、数日以内に消失します。

**あきたけ病児保育室**

**住所：門司区東門司２－４－１８**

**TEL：093-321-0541　または　090-6491-3697　　　　　　　病児保育室担当：　秋元　進之介**

**〇疑問コーナー〇**

**「１回目の接種で副反応が出たら、次回以降は、接種できる？**

**また副反応の可能性は？」**

1. **その都度、反応が違います！**

副反応の程度によっては、次回の接種を控えることもあります。反応のあらわれ方は様々なので、気になる症状があった場合は、主治医の先生にまずは相談下さい。

**＊ただし、１回目の接種でアナフィラキシーという重症のアレルギー反応が起きた場合は、**

**同じ成分を含むワクチンの接種は受けられません。**